

学校運営方針		「鍛え、ほめ、可能性を伸ばす」ことで、全人的な人間教育と生徒ひとり一人の自己実現をめざす。			
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標		評価(3月)
<p>本校は創立57年目を迎え、これまで継続してきた教育活動を更なる高みをめざし、発展させる時期に来ていると実感している。これまで本校が取り組んできた生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の成果が、昨年は生徒の進路目標達成や部活動の充実となって表れ、地域から信頼される学校づくりが前進したと考える。その成果を踏まえ、本年度は教職員一同が自らの力を最大限に発揮し、生徒の能力を引き出すことができるよう組織的に推進することが学校運営の課題である。また、生徒会や部活動を主体としたボランティア活動を積極的に行い、一層地域に開かれた地域密着型の学校づくりをめざす。</p>		○高い志を持って意欲的に学び、確かな学力の定着を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・凡事徹底(時を守り、場を清め、礼を正す) ・「授業で勝負」の理念のもと、常に日々の授業を分析、検証、改善を努力し、学習意欲の向上による確かな学力の定着を図る。 ・ICT機器活用、主体的・対話的で深い学びの実現(アクティブ・ラーニングの視点による授業改善)、観点別評価の充実を図る。 		
		○生徒ひとり一人の自己実現、進路実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己実現総合プログラム「a夢！」を実働させ、生徒の進路意識の高揚を図り、「南高スタンダード」を確立する。 		
		○自ら考え、多様な価値観の人々と協働し、社会の変化に対応して活躍できる人材を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動(生徒会活動、学校行事、ホームルーム活動)や部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組み、たくましい人間力、コミュニケーション力の育成を図る。 ・食育やスポーツの奨励等の取組をとって、心身の健康の保持増進を図る教育を実践する。 		
		○健やかにして豊かな情操を身につけた人間を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を行う。 ・他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく、実践力を備えた人材を育成する。 ・インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、教育活動全体において特別支援教育を推進する。 		
		○教員の指導力及び学校の組織力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開時間や職員研修、研究授業大会等の取組をとって、教職員の資質向上に努め、校内の指導体制の整備充実を図る。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務	学習意欲を涵養し、主体的に学び、考える姿勢を育む教育を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善を行うための研究授業等の実施について、研修部と連携して検討する。 進路指導部と連携を取り、個に応じた指導体制を確立し、効果的な授業実践を行う。 学習時間調査を参考に必要十分な課題の量を調整し、教科指導に役立てる。 			
	教務部の組織化を進め、効率的な業務運営を行う	<ul style="list-style-type: none"> 情報広報課と協力しながら業務を組織的に進め、生徒情報管理システムの安定的な運用を行う。 時間割作成・管理システムの安定的な運用を行う。 共有フォルダーを効率的に利用し、円滑な業務運営を行う。 			
	学校教育目標を達成するための教育課程編成についての会議の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の改訂、高大接続、新テスト導入を見据え、定期的に教科会議を開催し、情報共有を行う。 新たな学習・指導方法に対応するための情報を収集する。 			
	ホームページの更新と広報活動向けのパワーポイント等を作成する	<ul style="list-style-type: none"> 各月の行事に合わせ起案日・更新日を設定し、記録写真等は、情報広報課フォルダにわかりやすく保存する。 広報用のパワーポイントを作成し、体験入学や学校説明会など積極的な広報活動に努める。 			
情報広報	情報機器の管理や情報機器の利用促進を図る	<ul style="list-style-type: none"> 利用記録簿を情報機器の格納場所に置き、運用・管理を確実にを行う。 電子黒板などの、ICTを活用した授業の推進を図る。 			
	成績処理の学年担当者による管理・処理を行う	<ul style="list-style-type: none"> 教務課と連携し、考査後に速やかに確認表の作成を行い、迅速な成績処理を行う。 成績処理システムや入試システムの使い方を担当者に伝え、処理が行える人材の育成を図る。 			
	八幡南高校生としての自覚を身に付けさせるとともに、基本的な生活習慣の確立を図る	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修等を通じて教員の指導力向上を図り、連携して生徒を指導する体制を確立する。 教員と保護者の共通理解を深め、対話を通じ、生徒の心に届く説諭を心掛ける。 			
生活指導	安心して安全な学校生活を送るために、自主・自律の精神を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の連携を深め、共通認識を図った上で、生徒のリーダーシップ・フォローシップを涵養する。 自ら考え、自ら行動できる生徒を育成するため、生徒会活動及び掲示教育を推進する。 			
	校外での事故を未然に防ぐために、交通安全教育を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会主導の自転車通学者集会を実施し、登下校時の交通マナーを身に付けさせる。 自転車事故を想定した交通安全教室の実施や、リーフレットの配布を通じて、交通安全に対する意識を高めさせる。 			
庶務	式典、学校行事の綿密な企画と、PTA活動の円滑な運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 式典、行事の流れが把握できるよう、時系列的に要項を作成する。PTAの各種委員会との連携を深める。 			
	互助会関係行事の周知を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 互助会の意義を周知し、積極的な参加を促す。 			
	防災意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 関係消防署と連絡調整を密に行い、教員・生徒の安全・防災意識の向上につなげる。 			
進学対策	奨学金希望者への対応を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 奨学金の募集時期や種類を生徒に解りやすく周知し、就学及び進学を経済面から支援する。 			
	高大接続改革を見据え、体系的なキャリア教育の構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 総合学習の時間の使い方を生徒の実態や教育改革に合わせて工夫する。 進路探求学習の体系化を図っていく。小論文指導の充実を図り、体系的な小論文指導の見直しを行う。 進路講演会・大学説明会・勉強合宿等を活用し、進路目標を明確にさせる。 			
	進路実現に向けて、主体的に行動できる生徒の育成。	<ul style="list-style-type: none"> PDCAシートやデジタルサービスを活用し、生徒が主体的に模試へ取り組める指導体制を構築。 希望制課外、希望制模試を効果的に行い、学力向上に繋げていく。 			
	外部講師等のアウトソーシングを積極的に活用していく。	<ul style="list-style-type: none"> 勉強合宿の4日間のプログラム内容(進路講演会や進路相談会、集中講義の実施)や宿泊場所については3学年と検討を行う。 英語科と連携して、英語力向上プログラムを企画する。GTEC模試で4技能の受験を行う。 			
特進クラスの充実に向けての、模試分析とカリキュラムの検討。	<ul style="list-style-type: none"> 特進クラス編成会議において定期的に検討を図る 進路希望調査や特進クラスの希望調査を行い、効果的な進路指導が行えるようにする。 				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
就職・公務員対策	2年次より体系的な指導体制を構築する。	公務員指導の、講座や面接指導の回数を増やす。		
		公務員志望の生徒には、積極的にボランティアに参加させ、社会貢献活動の体験を積ませる。		
研修	授業改善に取り組み、教科指導力の向上を図る。	教員相互に授業を参観する期間を設定し、授業改善の意識を高める。		
		研究授業などを通して、新大学入試を見据えた教科内研修の充実を図る。		
	職員研修の充実を図る。	各分掌と連携して、本校の実態に合わせた校内研修を実施する。		
		校外における研修会などの情報を提供し、研修意欲の喚起に努める。		
図書	読書活動の推進と、図書館利用の促進を図る。	図書館オリエンテーション、朝読書、ビブリオバトルを通して、図書館の貸し出し冊数増加を目指す。		
		授業や進路指導における図書館の有効活用をすすめる。		
		図書委員会の活動(図書委員会だよりの発行、移動図書館、古本市など)を充実させる。		
保健	生徒の健康保持、感染症への予防・対応を図る	保健委員会活動の充実を図り、生徒が自発的に健康管理に努めるよう、啓蒙活動を充実させる。		
		インフルエンザ流行期には、予防のための周囲喚起や環境整備を行う。		
	生徒の日常における校内環境美化への意識向上を目指す	整美委員会の活動を活性化し、全校生徒の環境美化に対する意識の向上を図る。		
		保健課で定期的に校内を巡視し、清掃状況や危険箇所の把握に努め、環境整備に努める。		
	多様化する個々の生徒への理解・支援を図る	個々の生徒の情報共有や生徒の支援体制の充実を目指す。		
		職員研修会等で、支援を要する生徒の特性やその支援の在り方について、理解を深める機会を設定する。		
人権・同和教育推進	人権感覚の育成、人権意識の向上を図る	生徒の実態や社会の情勢に対応した学習教材を選定し、全職員で生徒の心に届く授業づくりを行う。		
		7月・12月に人権教育・啓発週間の取組を実施する。また、生徒会と連携し、啓発活動を行う。		
	生徒一人ひとりに対する確かな学力と進路を保障する	定期的に人権同和教育推進委員会で学年を超えて情報交換をする。また、情報共有のシステムを整備し、職員の共通認識を図る。		
		他分掌と連携しながら、学習面や生活面で様々な課題を抱える生徒の情報共有し、必要な支援へと繋げる。		
特別な支援や配慮を必要とする生徒への支援体制を構築する	中高連絡会や入学式等の相談コーナーなど、様々な機会をとおして生徒の状況把握に努め、個々の生徒に応じた必要な配慮や支援を行う。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、地域の特別支援教育コーディネーターなど関係諸機関と連携しながら、配慮や支援を行う。			
第1学年	八幡南高校生として自覚を持った生徒の育成を図る	校訓、学年スローガンを常に意識するような学年集いを複数回実施する。		
		部活動入部を奨励し、学校、学年、部活動それぞれの集団の一員であることを自覚した行動を促す。		
	自主的に目標を設定し、実現に向けて学習する生徒の育成を図る	基礎学力を定着するため、授業の大切さを自覚させ、積極的に取り組む姿勢を向上できるようにする。		
		模試の大切さを理解し、振り返りを行うことで、常に進路希望実現に向けた目標を設定を繰り返す。		
様々な場面でリーダーの育成を図る	学年代表を中心としたリーダーシップおよびフォロワーシップを涵養する。			
	様々な学校行事を通して、集団の中でリーダーとなれる生徒を多く育成する。			
第2学年	八幡南高校生としての誇りを持った母校愛に溢れる生徒の育成を目指す	学校行事や学年行事を通して八幡南高校の歴史や歩みをきちんと伝えることで母校愛を育む。		
		3年間を通しての学年目標である「マナーとエチケットを身につけた生徒の育成」を継続して行う。		
	中堅学年としての自覚と責任ある行動をとることができる生徒の育成を目指す	学校を中心に据えた生活リズムの再確立に努めさせ、改めて1年間出席皆勤にチャレンジさせる。		
		学校行事や部活動を通して学校全体のリーダーを育成し、そのリーダーが活躍する修学旅行を成功させる。		
高い進路希望の再設定と、その実現に向けての意識の高揚を目指す	高い進路希望の再設定を促し、難関大学や県外の大学へ目を向けさせるような進路HRや講演会を企画する。			
	本年度も「進研WEEK」を設定して全国模試への意識の高揚を図る。			
第3学年	学習目標、進路目標を明確にし、最後まで粘り強く努力する学習姿勢を育てる	担任会、進路検討会、教科会議等でそれぞれの生徒の学習状況の共通認識を図り、個別指導に生かす。		
		自分の苦手教科や苦手分野を把握させ、課題解決のための自主的な学習姿勢を育てる。		
	八幡南高校の最高学年としての自覚をもち、リーダーを中心としてまとまりのある学年集団を作る	学年リーダーを中心として、学校行事、学年行事を学年全体で盛り上げる。		
		思いやりがあり、最後まで助け合える学級集団作りを目指す。		
生徒ひとりひとりの希望進路の実現を図る	模試の結果の検討会や教科・担任会議を通して、個々の進路希望実現のための手立てを学年で検討する。			
	個人面談を積極的に行い、生徒の意欲を喚起すると共に、具体的な手立てを指導する。			